

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

いきもの写真

▼いきもの写真
廣大さんけん部で活動した大本武部長と南葉錬志郎さんが、三段峡や芸北で撮った「ひろしま いきもの写真展」が二月、東広島市立美術館で開かれた。二人が這いつくばって撮影していた姿が思い出される。「原色広

島三段峡図鑑」を作成した功績は大きい。現在、インスタグラム「take_namba」を発信している。これからの活躍に期待する。

を深めた。理念の基礎にしているのは二〇一七年に制定された三段峡憲章で、新たに「人々の有機的なハブになり、三段峡の本質的な価値を調べ、伝え、次の世代へつなげていく」を加えた。

星座観察や女王アリ探し

小中高生九人 多彩なアイデア次々

さんけん自然塾 企画会議

さんけん自然塾の来年度の企画会議が二月二十二日、広島市中区の広島市青少年市民センターに、小中高生九人が集まって開かれた。講座内容の話し合いでは子供達の視点で活発な意見やアイデアが出された。

しに行ったりして、和やかな雰囲気になった。午後からは四グループに分かれ、四季ごとの講座内容話し合い、星座観察や女王アリ探しなど新企画の

ハブになり 価値を次世代へ

さんけん設立十周年 理念再定義

さんけんが今年七月に設立十周年を迎えるのを機に二月三日、役員ら七人が出席して理念を再定義する会議が広島市中区のEPOちゅうごくで開かれた。これまでの活動を振り返

地域おこし協力隊員 町議と意見交換

赤目滝水族館を視察 地域で採集し展示

安芸太田町議会広報広聴特別委員会と地域おこし協力隊の意見交換会が二月二十六日、井上嵩裕隊員ら五人が出席して役場で開かれた。隊員が担当する活動を報告し、任期後の自立や住居確保の難しさを訴え、支援を要望した。議員側は情報共有と一般質問などで支援策を質す考えを示した。

オオサンショウウオなどを展示している三重県名張市の赤目滝水族館を二月二十五日、本宮炎理事長ら二人が視察した。スタッフ地域で生物を採集・展示するのが特徴で、オオサンショウウオの保護と情報発信は三段峡と共通の課題であり、次世代へつなぐ仕組みづくりの参考になった。



自然塾の来年度企画を話し合う小中高生

会議には今年加入して自然塾の講師を務める広島市内の高校生の山口結雅君と中学生の大橋瑞さん、自然塾を経験し、講師をサポートする小学生の森本悠太郎君と坂手瑠愛さんの四人が新たに加わり、これまでで最多の出席者になった。午前中の会議は打ち解ける時間にあてられ、自己紹介の後、自然を学ぶカルタで遊んだり、昼食を買い出

AIを運営に積極活用

スタッフ研修会 最先端技術学ぶ

さんけんスタッフの研修会としてAI(人工知能)勉強会が二月十三日、出版社KADOKAWAの親子AI教室で講師を務めている森本真理子さんを招いてLOUPEで開かれた。受講した本宮炎理事長ら三人は、最先端技術とあつ

て緊張気味だったが、森本さんは「手で打ち込むより、友達に話しかけるようにすると精度が上がる」「分からないうちはAIに聞くのが一番」などと活用のコツをアドバイスした。一つのツールに頼るのではなく、それぞれの長所に適したAI運営を充実させる。

成果はすでに、SNS投稿や助成金申請の準備に生かされている。今後、煩雑な事務作業の効率化などにAIを積極的に取り入れ、運営を充実させる。

セピア写真帖

(40)

「公設戸河内町消防組第貳部婦人後援會發會式 昭和十三年九月二十七日」とある。一九三八年、日中戦争が勃発した翌年の三段峡正面口である。奥が峽谷入口、右に前回



紹介した羽田ホテル、その手前には右から横書きされた「腰掛け茶や」の看板が見える。左には「写真」と「たばこ」の看板がかかる商店がある。鉢巻き、地下足袋、割烹着姿の女性のいでたちが戦時色を映す。消防組とは地域の消防団

鉢巻き姿の女性 正面口にも戦時色

だが、戦時下になって警察の補助機関として空襲時の消火、救護、避難誘導などを担う地域防衛組織となった。婦人後援会はその後方支援を受け持った。戦後、三段峡観光は復活し、高度成長期には団体の旅行先にもなった。それか

ら半世紀、来映者は漸減している。が、熊南峰ら初期開発者たちが望んだ自然の尊さ、日本的な美、清麗な精神の投影を求める国内外からの来訪者は増えていると感じる。さんけんの活動が今後一層、価値を持つと信じている。(松尾俊孝)

植物部に欠かせぬ存在

この人



山崎雄二さん

呉市在住の70歳代。話題が植物になると表情が和らぐ。芸北へは行っていたが、なぜか三段峡は避けていたという。植物仲間さんけんを紹介されて縁が結ばれた。

LOUPEの改装時には、テイクアウト窓口の足場や暖簾台の造作を一手に引き受けるなどDIYの主力でもある。植物を種から育てる達人で、丹精込めたイワタバコの苗をLOUPEへ届けている。「花の数が多く、新しい発見があるのが三段峡の魅力」と語る。100年先も今のままであってほしいと願う。さんけん植物部の立ち上げメンバーの一人。植物仲間が待つ三段峡へ一般道を片道3時間かけて通う。(炎)